やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌　　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	39 / 2018 / 32-36　(再編集版)
タイトル	八甲田の両生類
著　者　名	小山内　孝

自然を見つめる　やぶなべ会（青森）

八甲田の両生類

元顧問　小 山 内　孝

八甲田は、湿地・湿原、湖沼が多く両生類にとって最適な生息環境です。しかし、八甲田・十和田全域にわたっての両生類の報告はありません。

そこで調べて見ましたら、「十和田・八甲田に於ける両生類の分布状態」《青森県博物研究会会報第6号（昭和13年2月 所載）》という、今から約80年前の和田千蔵氏の論文を見つけました。

論文のⅠ「十和田八甲田の両生類目録」は、青森県の両生類の研究史に欠くことができないものです。養殖のウシガエルを加え、有尾類4種と無尾類9種、合わせて13種の両生類が、国立公園十和田、八甲田に生息していることが報告されています。

また、論文は、「Ⅱ.生態的分布として」その当時の八甲田・十和田の様子と両生類の生息している状況が、実にリアルに興味深く報告されています。

十和田湖畔宇樽部小学校前の水辺、小面積の開墾された水田が、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル、トノサマガエル、モリアオガエル、カジカガエル、ヤマアカガエル、ヒキガエル等が混生し、その様子は、十和田湖湖畔の蛙集会所、Ⅲの結びの所で、イモリ・トウホクサンショウウオ、ハコネサンショウウオの有尾類を加え、両生類が混棲する天然の動物園と和田氏は言っています。

私も現在、「しらかばビオトープ」を作っていますが、ビオトープを始めた時は、ヤマアカガエル、アズマヒキガエル、ツチガエル、トノサマガエルのなどのカエルの両生類が2～3年の間は増えたのですが、現在は少なくなっています。トンボの仲間は54種も見られ、トンボの楽園となったのです。しかし、現在は16種と減少してしまいました。

さて、今、宇樽部小学校前の水田はどうなっているのでしょうか。是非調査してみたいものです。

また、私は1回しか行ったことがない黄瀬沼や横岳の沼に、和田氏は数回行っています。これにはびっくりです。どのようなルートで行ったのか、私の場合、チシマザサで道がおおわれ行くのに大変苦労しました。多分道がよくついていないのです。

現在の八甲田・十和田の両生類生息状況と、約80年前の和田氏の調査を比較すると、その生息数の減少はひどいものだと思います。

論文の原文をそのまま掲載しますので、お読みください。

十和田、八甲田に於ける両生類の分布状況　‥‥和田干蔵氏の論文

余は1931年八甲田山に於ける脊椎動物目録(1)中に、両生類の有尾類4種、無尾類4種、合計8種をあげたが、1935年渡辺福寿氏は十和田、八甲田の動物目録(2)に於て無尾類の養殖のウシガエルを加え5種とし合計9種とされた。然るに余は1935年以降3ヶ月に亘り、八甲田山の外に十和田湖付近の調査に着手し、殊に1937年には6月(2日間)、7月(3日間)、8月(5日間)、の都合3回10日間出張し、8月には南八甲田(櫛ヶ峯連峯)から十和田湖にかけて色々と調査をした結果、従来見逃していた蛙の分布地や産卵場が逐次判明した。今般新たに判った蛙は十和田湖畔の3種と従来疑問視していた八甲田山の1種とを合計して4種となったので、それに従来の有尾類4種を加えると合計12種の両生類が十和田、八甲田方面に生息することになる。

Ⅰ.十和田八甲田の両生類目録

1.有尾類 CAUDATA

A.サンショウウオ科　Hynobiidae

(1)*Hynobius lichenatus*　BOULENGER　トウホクサンショウウオ

(2)*Hynobius nigrescens*　STEINEGER　クロサンショウウオ

(3)*Onychodactylus japonicus* (HOUTTUYN)　ハコネサンショウウオ

B.イモリ科 Salamandridae

(4)*Triturus pyrrhogaster* pyrrhogaster(BOIE)　イモリ

2.無尾類 ANURA

A.ヒキガエル科　Bufonidae

(1)*Bufo bufo japonicus*　SCHLEGEL　ヒキガエル

B.アマガエル科 Hylidae

(2)*Hyla arborea japonica* GUENTHER　ニホンアマガエル

C.アカガエル科 Ranidae

(3)*Rana niguromaculata niguromaculata* HALLOWELL　トノサマガエル

(4)*Rana ornativentris* WERNER　ヤマアカガエル

(5)*Rana tagoi* OKADA　タゴガエル

(6)*Rhacophorus schlegelii schlegelii* (GUENTHER)　シュレーゲルアオガエル

(7)*Rhacophorus schlegelii arborea* (OKADA et KAWANO)　モリアオガエル

(8)*Polypedates buergeri* (SCHLEGEL)　カジカガエル

上記の如く有尾類4種、無尾類8種、合計12種の両生類が国立公園十和田、八甲田方面に生息していることが判った。

尚、これに養殖しているRana catesbeiana 即ちウシガエル(Bull-Frog)を加えると13種になる。此の内無尾類の(2)、(3)、(5)、(6)の4種は同地方産として今迄発表されていないから特に説明し、他は既に発表されているから分布地点だけを述べ、風致と関係あるものは少し詳細に説明致したい。

Ⅱ．生態的分布

モリアオガエル、ヤマアカガエル、ヒキガエル、カジカガエル及びサンショウウオ類は同地域を通じているが、トノサマガエル、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、タゴガエル等は一地域を限って生息していることが判る。

（1）イモリは八甲田山では1340米の高度にすら分布するが、十和田湖、蔦沼等には一番多く、1000米より高くなると次第にその数が減って来る。乗鞍岳山腹1110米の黄瀬沼（太田沼）にも相当泳いであるが、どの沼でも岸の方に多く集っている。高田萢（970米）の湿原にも随分いるのでモリアオガエルの卵塊を飽食して静止しているのも見られる。

（2）クロサンショウウオは低い所には少ない。十和田湖では少数岸の方に見えるが、八甲田山では1550米の鏡沼は有名な繁殖地で、6月上旬から見事な産卵をするので山の人達はこれを戸和田（奥山の水溜の義）の餅と呼び、卵塊の多少によってその年の豊凶を判断することになっている。産卵期以外には方々を漂行し1584米の八甲田大岳の頂上で捕えたこともある。

（3）トウホクサンショウウオはこの類の中で一番分布が広い。田代馬立場附近の清水の湧いている所には一番多く、萱野茶屋の用水井（泉）にも6月上旬から産卵するし、十和田街道の路傍水溜にもあちこちと散乱している。亦南八甲田の黄瀬沼にも横沼にも産卵している。海抜面高度からいうと1584メートル迄漂行し附近の巨石下に隠れていることが往々見つかる。

（4）ハコネサンショウウオは1584メートルの高所で捕ったこともあるが一般に少ない。産卵場は渓流であるが八甲田山では居繰沢（田茂萢沢670メートルPH7.0）附近が著名な産地である。

（5）ヤマアカガエルは何処でも見つかる。水溜にだらしないように産卵しているが、海抜高度は1550メートルの高所に達し、性勇悍で飼育中カナヘビを呑んだ事もある。

（6）ヒキガエルも極めて普通なもので体の色彩は様々変化しているが、路傍でも林中でも湿原でも6～7月の頃にはよく見当たるもので、赤蛙と同様路傍排水路に沢山産卵する。しかして一番見事なのは奥入瀬渓流の路傍排水路の中で1雌に20余の雄が寄り重なっている交尾団が所々に5月の末頃に見られることである。中には雄を離して見ると雌が死んでいたのもあった。この蛙とヤマアカガエルの蝌蚪(オタマジャクシ)は、十和田道路至る所の排水路や路傍の水溜に生育している。八甲田山で酸湯大岳と井戸岳の鞍部に当る高砂の座敷という所の溶雪水の溜まる所に、数10匹のヒキガエルとヤマアカガエルが産卵するが、雪がなくなる頃には水も蒸発透下して乾くため、卵や蝌蚪は皆枯死し、その惨状実に気の毒な程である。

（7）モリアオガエルは同地域一帯に生息しているものであるが、その産卵場は湖畔や池沼畔である。一番高い産卵場は八甲田大岳の鏡沼（1550メートル）で低い所は奥入瀬渓流の路傍（約320メートル）らしい。萱野茶屋の用水溜（520メートル）には昭和6年頃から二番(つがい)位6月中旬頃から産卵する。田代温泉の新湯附近にも点々産卵する。蔦沼畔、赤沼畔（八甲田瑠璃湖）、黄瀬沼畔、横沼（1130メートル）畔、谷地温泉、猿倉温泉、酸ヶ湯温泉附近、馬立場（雪中行軍遭難記念銅像所在）、八甲田の毛無岱、仙人平、高田萢、黄瀬沼萢、奥瀬萢、十和田湖畔（子ノ口火口瀬、小畳石、宇樽部等）等に産卵する。十和田湖畔子ノ口水門附近の青葉に、6月下旬から7月上旬に風船玉のような卵塊を産むのと、水畳石附近の樹蔭でコロカロ、コロコロと合叫する音楽とは如何にも深山の妙味を湖水の風景美に添うる如くで全く自然の驚異と讃せざるを得ない。

（8）カジカガエルは渓流にいるため制限されているようであるが、十和田湖畔に饒産することは一寸珍しいけれども何処にでもいるというわけでなく、子ノ口の湖畔から小畳石附近の湖岸一体玉石の

浜をなしている所に数百のカジカガエルがいる。去年(1937)7月上旬には盛んに鳴合をし人が接近すると急いで水中に潜入してしまう。次に有名な所は蔦川の末流と奥入瀬渓流である。徒歩で渓流を極むる時は該蛙の鳴合によって大いに慰められる。宇樽部小学校前の水田用水路にも相当数の同蛙がいて鳴き噪いでいる。八甲田路線の寒水沢渓流にも少しはいる。田代新湯には沢山おるので夜、提灯の光に集まって来るからこれを押えて商売にした人も以前あった位である。奥入瀬渓流と蔦川尻のものは聲が宜しい。
(9)シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル、トノサマガルは、従来十和田湖附近にはいないと思っていたが、昨年(1937)やっとこれ等平地種もいることが判明した。その場所は十和田湖畔宇樽部小学校前の田圃で、ここはきわめて小面積の開墾された水田で、背後は直ちに森林になっている西向の場所である。同所にはこの3種の外にモリアオガエル、カジカガエル、ヤマアカガエル、ヒキガエル等が混生し、生態的分布上注目すべき所で十和田湖畔の蛙集会所ともいうべき所である。ここのカジカガエルは渓流の音と競争しないために聲が低調である。シュレーゲルアオガエルとモリアオガエルと生態的に分布を異にする両種が同一地帯に混棲する故、其の環境を明かにしなければならないが之は他日の研究に譲ることにする。
(10)タゴガエル(タゴアカガエル)は酸湯街道寒水沢(金太郎沢)の橋附近(約650メートル)の湧水地に産卵している。余は昭和4年(1929)6月と昭和11年(1936)6月(何れも上旬)に此所から採取したが、去年の夏信州の飯田中学校宮下忠義氏から頂いた標本と全く同一の形態をしていたのでやっとタゴガエルであることが判明した。この蛙は分布上珍しいもので、今迄は鹿児島、愛媛、和歌山、奈良、岐阜、長野の諸県に発見されたので、四国、九州、本州中南部地方に分布するものとされていたが、八甲田山からも捕れたから本州、四国、九州に分布することになるのである。而も東北地方ではまだ見つからないものが十和田国立公園内に産するという事は又誇りとすべきである。タゴガエルという名称は採取者田子勝弥氏を記念するために付けられたものだといわれている。これは何処にでもいるという普通のものでないから登山者は心して保護しなければならない。

Ⅲ. 結び

(1)十和田国立公園内には有尾類4種、無尾類8種、合計12種の両生類がいる。この外蔦温泉で養殖しているウシガエルは附近を漂行し、外の仔蛙を?食している。
(2)十和田国立公園内の温泉附近にはモリアオガエルが多く産卵する。
(3)十和田湖畔宇樽部部落前の水田はモリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル、トノサマガエル、カジカガエル、ヒキガエル、イモリ、トウホクサンショウウオ等多種の両生類が混棲する天然の動物園である。
(4)八甲田山路線寒水沢附近はタゴガエルの産卵所であると同時に、現在ではこの蛙の世界最北限分布地点である。故にこの蛙の分布は青森県迄延長したことになる。
(5)十和田湖畔子ノ口沿岸の玉石浜には、水中にカジカガエル、樹上にモリアオガエルが棲んでいるのも珍しい。

本稿を草するに際し、信州産タゴガエルの標本を贈与された宮下忠義氏及び宇樽部のニホンアマガエル採取に助力して下さった石橋重人氏に深甚の謝意を表する次第である。

参考にした文献

(1)和田　千蔵　八甲田山に於ける青蛙の研究. 1931.
(2)渡辺　福寿　十和田八甲田の動物. 1935.
(3)岡田弥一郎　日本産無尾両生類分布研究. 動物学彙報 第11巻 第2号 100頁 1926(欧文).
(4)　〃　日本産蛙の解説. 動物学彙報 第11巻 第4号 271頁 1928(欧文).
(5) 〃　日本産無尾両生類. 1931(欧文).
(6)沼尻　好　高野山の蛙. 高野山中学校々友会誌三密 11-12頁 1928.（宮下忠義氏より借覧）
(7)和田　千蔵　青森県に於ける両生類の分布. 青森博物研究会々報 第2号 41頁 1935.
(8)宮下　忠義　下伊那群産タゴガエルに就ての二、三の観察. 信濃教育Step.1936.
(9)佐藤井岐雄　日本動物分類 両生類 有尾目. 1937.

― 青森県博物研究会々報　第6号　昭和13年2月　所載 ―